

寄稿

介護制度改定、問われる「地域の力」

おだわらを拓く力 加藤 憲一

この4月から介護保険制度が改定され、日常より介護予防を進めること、在宅や地域での介護体制を強化することが、重要課題と位置づけられました。つまり、老いを迎えた人が、可能な限り住み慣れた自宅や町で、家族や親しい人々の中で暮らしてゆけるよう、地域社会の仕組みづくりが目指されることとなります。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。経営小田原高校、京都大学法学部卒。経管戦略コンサルティンク会社、民間教育長団体、農業、オービックビル事務局長などを経て、現在有限会社あしがら研代表。妻と子ども二人の4人家族。

小田原市でも昨年来検討が重ねられ、新たな介護計画がスタート。しかし、広大な市域に5つだけ設置される地域包括支援センターの円滑な運営、地域への多様な介護サービス機能の配置・育成など、キメ細かい地域福祉の実現に向け課題は山積。性急な制度改定に、介護現場からは戸惑いの声も多数聞かれます。

福祉先進国である北欧諸国では、この仕組みを高い税金によって手厚く構築してきました。しかし注目すべきは、その前提として成熟した民主主義があり、一人ひとりの個性や生き方を尊重する文化が地域社会にあるということです。

行政の介護計画の現実性や妥当性が問われることは勿論ですが、それ以前に、誰もが避けて通ることのない「老い」を受け入れることの出来る「地域の力」と、それを構成する私たち市民の価値観や生き方が問われるのです。

4月22日、「折り梅」という映画の上映会を行います。身近な人の認知症、それを包む家族や地域の姿葛藤を乗り越え希望が見出されていく道のりが描かれた実話。作品では、認知症を柔らかに受け入れる生き方が示され、人を慈しむ気持ちと、人間の可能性を信じる眼差しを観るものを与えてくれます。ぜひ多くの皆さんにご覧頂き、このテーマを考えるきっかけにして頂ければ幸いです。

おだわらを拓く力
 (加藤けんいち後援会)
 代表／飯田 和

小田原市栄町2-13-1-2F
 TEL 0465-21-5260
<http://www.katoken.info>
 加藤憲一日記 更新中!